

タイトル：平成 30（2018）年度 中東☆イスラーム教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「18 世紀イスタンブルにおける炭流通と荷役組合」

岩田 和馬（東京外国語大学大学院）

生来のものぐさな性格が祟ったために、これまでチュートリアルへの参加を毎年逃してしまいセミナーへの参加を逃してきてしまったが、今年はチュートリアルへ参加することを逃さず、どうにか参加することができた。

今回のセミナーにおいて、私は研究発表の場をありがたくもいただくことができた。今回は、「18 世紀イスタンブルにおける炭流通構造と荷役組合」という題目で、18 世紀のイスタンブルにおいて、生活や生産活動の基盤の一つであった木炭の生産-流通-消費という流れの中で、農村の炭焼職人、運送を請け負う大型船所有者、炭商人組合、都市内部における木炭運搬を請け負う荷役組合などの諸社会集団間の木炭を媒介とする関係を分析した。今回は、こうした諸社会集団とそれを取り巻くより多様な集団によって形成される多様な木炭の流通構造を捉えることに終始したため、各社会集団間における木炭をめぐるヘゲモニー関係などの社会関係の分析を十分に行うことができなかつた。今後は、木炭販売の場となる空間の所有関係や、場と物を磁極とした各社会集団の動きを捉えていくことで、イスタンブルという大都市の内外に形成された諸社会集団から構成される社会関係の総体を捉えていきたい。

セミナー発表において、先生方や参加者の方々より様々な視点からの質問やコメントをいただくことができ、一人で史料と向き合って頭をひねっていても思い浮かばないような視覚からの分析の可能性を提示していただいた。また、セミナーで発表をしていただいた先生方のお話を聞くことで、史料分析といった方法に関する部分のみならず、研究におけるより基底的部分に関して自分を振り返る機会にもなり大変勉強になった。こうした、イスラム地域という共通項をもとに、ディシプリンも地域も年代も異なる様々な研究者が一堂に会し、学生の研究にコメントをしていただけるという場が開かれていることは非常に大きな意義があると感じた。

同時に、セミナー終了後の懇親会などを通して、他大学の学生の方々との交流を持つことができたこともイスラム地域研究という大きな枠組みの中で自身の研究をどう位置づけるか、といったことを捉え直す契機となり、今後の自分の研究の方向性を決定していく上で非常に大きな助けとなった。